

第V章 関係部局が実施する調査や策定する計画の反映

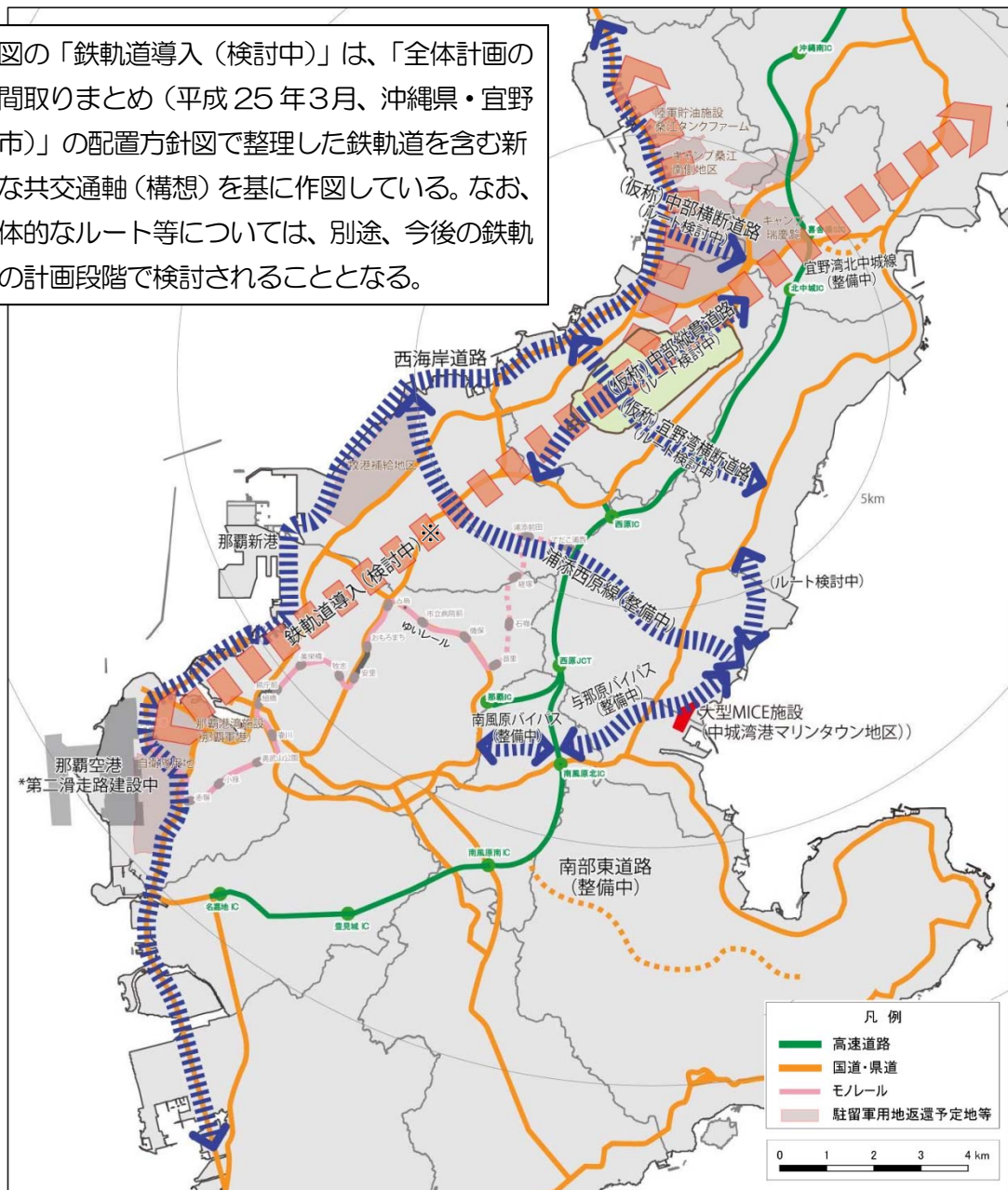
1. 関係部局の検討状況

(1) 広域道路

(1) - 1 関係部局の取組状況

- ・平成28年度より、普天間飛行場跡地道路整備検討会議を組織し、駐留軍用地跡地内における「(仮称) 中部縦貫道路」及び「(仮称) 宜野湾横断道路」の道路整備のあり方等の検討に着手している。また、広域交通ネットワークを構成する「南風原・与那原バイパス」及び「与那原バイパスと国道329号の接続区間」についても整備・検討が進められている。

※本図の「鉄軌道導入(検討中)」は、「全体計画の中間取りまとめ(平成25年3月、沖縄県・宜野湾市)」の配置方針図で整理した鉄軌道を含む新たな公共交通軸(構想)を基に作図している。なお、具体的なルート等については、別途、今後の鉄軌道の計画段階で検討されることとなる。



図V-1 広域道路ネットワーク図

(2) 鉄軌道

鉄軌道に関する検討状況について、現状と関係部局の取組状況を示す。

(2) - 1 関係部局の取組状況

関係部局の取組状況を下表のとおりまとめた。

表V-1 鉄軌道関係部局における取組状況

年月	取組みの内容
平成 26 年 10 月	鉄軌道計画案策定に向けた取り組みをスタート
平成 27 年 1 月	計画案づくりの「進め方」を決定。
平成 28 年 3 月	鉄軌道導入に係る骨格軸のルート検討として、 <u>4つのルート案</u> 提示。 その後、寄せられた県民意見等と踏まえ、 <u>3案追加し、7つのルート案</u> を設定。
平成 28 年 10 月	第5回沖縄鉄軌道技術検討委員会では、鉄軌道導入による効果として「まちづくりへのインパクト」を設定。 その中で効果の例として「駐留軍用地跡地の活性化」を提示。
平成 30 年 1 月	第8回沖縄鉄軌道計画検討委員会では、構想段階の推奨ルートとして、北谷町を経由する「C派生案」を選定。
平成 30 年 3 月	沖縄鉄軌道計画検討委員会は、アクセスや需要面などから、北谷町などを経由する「C派生案」を構想段階での推奨ルート案とする計画書(案)を知事に手交した。